# 平成２７年度第２回　高砂市文化振興審議会

日　時　平成２８年３月２９日（火）１０：００～
場　所　高砂市役所西庁舎４階　会議室

出席委員

| | | | |
|---|---|---|---|
| 会　長 | 田端　和彦 | 委　員 | 唐津　哲男 |
| 副会長 | 岩見　一美 | 委　員 | 髙橋　賢吉 |
| 委　員 | 原　英俊 | 委　員 | 前田　栄一 |
| 委　員 | 天野富美男 | 委　員 | 森本　幸吉 |
| 委　員 | 渡邊　紀子 | 委　員 | 松本　克英 |

出席事務局職員

| | |
|---|---|
| 健康文化部長 | 岸本　修 |
| 健康文化部くらしと文化室長 | 福原　裕子 |
| 健康文化部くらしと文化室文化スポーツ課長 | 森岡　修平 |
| 健康文化部くらしと文化室文化スポーツ課主幹 | 前川　吉也 |
| 健康文化部くらしと文化室文化スポーツ課係長 | 山野　晃路 |
| 教育部教育推進室長 | 木村　敏郎 |
| 教育部学校教育室長 | 西尾　記佳 |
| 教育部教育推進室生涯学習課長 | 岡田　敏弘 |
| 図書館名誉館長 | 中元　孝迪 |
| 図書館長 | 大塩　正一 |

協議事項

１　開　　会
２　あいさつ
３　議　　題
　（１）平成２８年度予定事業について
　（２）文化施策に関する市民アンケート結果について
４　報　　告

（１）文化保健センターリニューアルについて

５　閉　　会

○事務局

定刻になりましたので、ただ今より平成 27 年度第２回高砂市文化振興審議会を開催いたします。

開催に先立ちまして、当審議会の公開についてですが、「高砂市文化振興審議会の運営に関する規程」に基づき、公開とさせていただいており、また、傍聴希望者はおられません。委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。

それではまず、お手元の資料の確認をお願いします。

（資料確認）

では、次第により進行しますので、よろしくお願いします。

○事務局

まず、開催にあたりまして、健康文化部長よりご挨拶申し上げます。

（健康康文化部長　あいさつ）

○事務局

ありがとうございました。

○事務局

引き続き、会長よりご挨拶をお願いします。

（会長あいさつ）

○事務局

ありがとうございました。また、新図書館が２月１４日オープンし、名誉館長、館長がお越しですので、ご紹介いたします。

それでは、自己紹介をお願いします。

（自己紹介）

○事務局

本日の会議は、委員全員の出席により、審議会規則第 5 条第 2 項の規定により、過半数が出席されているため会議が成立していることを報告いたしまして、３の議題に移ります。

では、今後の議事進行は、会長にお願いいたします。

○会長

それでは、次第により進めさせていただきます。

議題の（１）平成 28 年度事業について、事務局から説明願います。

○事務局

平成２８年度予定事業について、ご説明いたします。

特に２８年度の新たな取り組みや変更のある事業についてご説明いたします。

平成２８年度予定事業の資料の１ページをお願いします。表の１番上、高砂文化教室「高砂学」につきましては、来年度も引き続き行い、活動編１０回、講座編１

回、寺子屋編１回、謡曲編５回を実施する予定です。内容につきましては、別紙平成２８年度高砂文化教室「高砂学」の資料をお願いします。

平成２８年度、新図書館がオープンし、図書館での講座が始まるため、講座がかぶってしまうため、高砂学の講座編は縮小し、活動編を拡充し、新規の活動編を実施することといたしました。

活動編は、４月３０日に荒井地区のまち歩きをしながら、荒井地区の歴史、文化を学びます。５月２８日に環境政策課と合同で、高御位山の自然観察会を行います。６月５日は市ノ池公園のスケッチをいたします。６月１８日は中央公民館で料理教室を実施します。７月２４日は竜山石を使ってランタンづくりを実施します。８月２８日は高砂染め体験をいたします。９月２５日は、高砂学で山片蟠桃をまだ取りあげていなかったので、山片蟠桃の足跡をたどる神爪まちあるきを実施します。１０月８日は英語でめぐる高砂神社秋祭りを実施します。１１月６日は市ノ池公園で写真教室を実施します。２月２６日は宮本武蔵が残した「野田派二天一流」の体験教室を実施いたします。裏面をお願いします。

講座編として、オリンピック開催年にあわせ、「アスリートを支える靴づくり」の講座を文化保健センターで実施します。また、新たに、夏休みにこども対象に８月５日、申義堂を活用して寺子屋を行います。伝統文化である琴と狂言の体験を申義堂で行います。謡曲編としまして、謡曲「高砂」を謡うお稽古を５回実施いたします。高砂学につきましては、このように新たな講座を加え、市民講師の先生方と共にさらに充実した内容で実施したいと考えております。

２ページ、産業振興課（高砂物産協会）において、平成２７年度、地場産業人材育成支援事業を行っております。これは、松右衛門帆布織職人を育成する事業者に対する支援で、織職人を２～３人育成を目標としています。２月から講座が開始されております。

６ページ、図書館において、新図書館のオープンに伴い、名誉館長による講演会が新たに行われます。講演会の内容は別紙のとおりです。また、講演会とは別に、名誉館長による中元ゼミが行われます。現在、ゼミ生を広報４月号において、募集しているところです。

１８ページをお願いします。工楽松右衛門旧宅が高砂市指定文化財に指定されたことにより、工楽家住宅を改修・復元するための実施設計を平成２８年度に実施いたします。

１９ページをお願いします。高砂分署旧庁舎の保存工事を平成２７年度実施いたしております。この高砂分署旧庁舎は、建物が県の近代化遺産総合調査報告書において、旧水道配水塔とともに高砂市内の文化財登録リストで市有施設では唯一の建築物であり、近代（戦前）歴史的建造物としての価値があります。旧分署のある地区は、県の歴史的景観形成地区に指定されています。古いポンプ車などの展示室を

兼ねた水防倉庫の機能を持たせながら、文化・観光資源として保存することとしています。

３１ページをお願いします。施設整備として、経年劣化した文化会館のガス配管の改修工事、文化会館２階東側トイレの様式化改修工事、文化会館の老朽化した通信危機であるインカム機器の更新を行います。

続いて、「文化振興審議会における質問・意見についての回答」の資料をお願いします。文化振興審議会での意見が各部署に反映されているのかというご意見がございました。審議会でいただいた意見については、各課へ照会し、回答をいただくようにしました。各部署においても文化振興に寄与するようにしていきたいと考えております。

簡単ですが、説明は以上でございます。

○会長

どうもありがとうございました。あの、２８年度新規事業も含めて、我々もみてわかりますように一部廃止の事業も有りますけれども、多くは継続されるところが多くございます。先ほどもうしあげましたとおり、実際に具体的に進めていくにあたって、こういうことをしてはどうか、とか、あるいは来年２９年度たとえばこういうことが考えられるんではないか、とか、そのような観点からでも結構でございますので、ご意見をいただければと思います。ご説明いただいたところ以外でもお気づきのところがあればご指摘いただければと思いますので、お願いいたします。どなたからでも結構でございます。

○委員

６頁の図書館のところ先ほど館長さんの説明の中で、１日の貸出し数が２２００人とおっしゃったのですが、地元の方が新しい図書館に行かれた時に、本の数がえらい少ないで、と言われたんですね。それで、じゃあ、いったい何冊借りてるの、とお聞きしましたら、一人１０冊までって言われたんです。でこの２２００人が１人１０冊借りると、２００人が借りてるってことになりますよね、だいたいね、そうしますと、あまりにも１０冊っていう本がたくさんでてしまうと、図書館の本、残っている冊数が少なく感じるくらいに皆さんがここの図書館を利用されてる方感じてるんではないかと、わたしはちょっとおもったんですが、その辺の方はどうなんでしょうか。また新規の本も入ってきますし、ということであれば、それはそれでいいんでしょうけど、この辺のご説明をお願いしたいなと思いました。

○会長

図書館の運営上の問題もございます。１人１０冊ということの適切性でございますとか、通常図書館の場合人気のある本を複数用意しておりますので、そういうニーズにあうようになってると思いますけど、そういった問題１人１０冊とい

うのはどうかというのと、実際借りに来られて使われることに対してどうお考えなのかということこの２つだと思うんですけど、お答えいただければと思います。

○事務局

ほんとに多くの方にご利用いただいて、確かに書架の方がね、若干寂しくなったとという感じがします。ご指摘のとおり旧の図書館では３冊までしか借りられなかったですけども、この度１０冊ということで、この東播地区で、１０冊借りられる図書館は高砂だけでございます。それだけ多くの方々に提供できるということで、１０冊貸出しするということ自体は、良いことと思って実施しております。ただ一時期大変来館の方が殺到いたしまして、本がずっとこう借りられましたから、一時期寂しい時期があってございました。２週間で返却されますので、今はまた、書架の方も募ってきてますので、またぜひご来館いただいて、お借り頂けたらと思います。

○会長

ありがとうございました。

よろしいでしょうか。

○委員

上手くそれがね、本来たくさんの方に利用できている方向で回っていれば、結構なことだと思います。ありがとうございます。

○会長

明石市は本の街という一つのコンセプトを作られているということで、まあ駅前の図書館を作って図書館をいかに利用して文化の発信するかというのは、他の市でもされているということで、競争力のある図書館ということで１０冊というのを１つ考えられるということと思います。

○事務局

先ほどの件でちょっと補足なんですけど、貸出冊数につきましては貸出しあたりにしますと、3.54 ないし 3.6 という実態でございます。なので、たくさん借りられる絵本ですとか読みやすい本はたくさん借りられると思うんですが、逆に分厚い本に関しては２週間という制限がありますので、それについてはすくないのかなと感じております。それと今インターネットで貸出期間の延長も１回限りできるようになってございます。読みにくい時にはそういう形で延長という方法もとっていただけると思います。

○会長

ありがとうございます。

○委員

２月１４日に同じ図書館が始まったんですけど、ほんとに喜んでおります。大変な前進でないかと思っておるんですが、この前ちょっと会議所の方で勉強会を

しましたときに、現在の冊数が１５万冊ということで、きいておりまして、旧館の所とあわせて１８万冊で、貸出密度という数字があるみたいで、蔵書数と人口の割合ということについて、高砂市は１．９２という数字だと、でちょっと２年前の資料なんですけど、加古川で大体８万冊蔵書してるので、この数字が３．７７、姫路で１７９万冊で３．３５、明石も３．３５、たつのは４．０６というようなことで、図書館できたんですけど、本の数が少ないということについて、このあたりの蔵書数の増加いうものについてはどのように予算化されているのかということをお聞きしたいんです。

○会長

なかなか図書館は今日初めてですので、なかなかちょっと難しいかもしれないですが、もしありましたら、答えられる範囲で結構ですので、お答えいただければと思います。

○事務局

指定管理料の中で９７０万の予算をいただいております。平成２７年度も１５００万の予算をいただいておりましたので、これからまた、本を買うことができるという事で当然その、１５万冊からはじめまして、増えていくということでございまして、よりいっそう利用いただければなあというところでございます。そこらへんと合わして、だんだんと書架がうまっていく、ということでございます。

○会長

よろしいでしょうか。

○委員

蔵書数、予算とって増やしていただけると思うんですけど、キャパとしてはどの程度まで

○事務局

新しい図書館ですが、一応２２万冊くらいまでいけるということで、２０万冊を超えるまでは充分余裕がございますので、今現在１５万冊にしております。それを将来的には２０万冊

○委員

逆に言えば蔵書としては２０万冊を超えられないんです。

文化の町いうことで、高砂に対抗して、この近辺だったらたつの市かなと思ってまして、たつの市は読んだら、４万冊ぐらいある状態だと思うんです、高砂市の人口に置き換えますとね、４万冊弱ですよ。現状のたつの市、２年前の蔵書数が３万３，３００というようなことで、調べてきてるんですけども、ちょっと２万では、この東播地域で一番低いとこでも、２．７３の、三木市が２．７３なんですよ。高砂市が今１．９ですか、ぐらいになって、大分落ち着いてきたんですけども、その前は１．０８、その図書館できるまではですね。ですから、またそ

の辺りも、その図書館プラス何かそういう形の、利用できるような形のものを図っていただいたらと思います。

○会長

ありがとうございます。図書館には大事な資料も持ってるところで、ご関心も多いかと思います。図書館はもちろん、蔵書数も大事なんですけど、レファレンス能力とか、そういったものも多分大事になると思いますので、要するに、ほかの図書館から借りてくると、そういう能力も大事になっております。指定管理者のところも、そういうネットワークをお持ちのところは指定管理者になっておられますので、そういった形で、足りないところはほかの図書館から借りられるような形をつくるようなこともできると思いますので、文化の発信としての図書館の役割を果たされるだろうと。

○委員

この６ページの一番下、図書館の話ですけども、この２８年度の予算が１２０万円になっとる、先ほど１，５００万円で図書館の本をそろえるという話で、市のほうで１２０万円、これはどういうことですか。

○会長

ちょっとじゃあこれ、６ページの１－２－１の資料、図書館運営管理事業の詳細というのをお答えいただければと思うんですが。

○事務局

こちらの資料につきましては、市の関係の予算でございまして、講演会等に関する経費という形でございます。

先ほど、申されましたように、指定管理料というのは、５年間契約でございまして、年度ごとに支出をしてございますので、そういった経費につきましては、こちらの事業としては上がってきてないということでございます。

○会長

市として、この１２０万円を渡し、図書館で行う事業として、どうする、お金だけは１２０万円預けちゃうと。

○事務局

市役所のほうで自主的に行う事業でございます。図書館は別途指定管理料の中に、館の運営費、先ほどの書籍を買う、購入費用とか、読み聞かせとか、そういう費用等の経費は、指定管理料として毎年実行しているところでございます。

○会長

ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。

○委員

この播磨学講座とゼミも、播磨学講座が８０人、ゼミが３０人、全て埋まってる。それは先生がものすごく著名人で、ファンも多い方ですから、それは当たり前なんですが、ちょっと心配なのは、先生は姫路のほうでもものすごいファンが多い人ですから、ちょっと、内容が従来の高砂学からいっても、かなり広い範囲の、播磨学ですから、広い範囲の話になるわけですが、その辺の、例えば地元の人が申し込んだら人数を増やしてあげるとか、何か手の打ちようはないんかなと、別にその８０人の内訳をどうのこうのというわけじゃないんですけども、高砂市優先になってるのかなと、ちょっと不安というか、心配してるんですけど。

○事務局

おかげさまで、播磨学のほうは、本当にいっぱいになってしまいまして、先ほどのお話にもございましたように、たくさんの方にお諮りをしたところでございます。

当初は、市内に限ったほうがいいのかなということも考えたんですが、従来の高砂学をそのまま引き継ぎまして、広く参加をしていただくという形にさせていただきました。

その後のゼミにつきましては、それを反省いたしまして、今回の募集につきましては、往復はがきで申し込んでいただいて、一人１枚で抽選をさせていただくという形にしております。

それから、人数については、３０人のところをもう１０名増やしていただきまして、４０名で今のところ募集をしております。ただ、ゼミにつきましては、播磨国風土記を継続的に読んでいくという形で考えておりまして、一方的ではなしに、それぞれの参加されている方が素読なりしながら親しんでいただくということも考えております。その辺でちょっと反省をしながら運用しているところでございます。

以上でございます。

○会長

先ほど、ちょっと申し上げましたように、やはり外から来ていただくって大事なところでございまして、そういう意味で、先生がここにいるというアドバンテージといいますか、強みというのを生かしたいというところと、先ほど、もちろん文化行政として、市民を中心にすべきであるという、この一種のせめぎ合いという。

本来市の予算というのは、市民からいただいている税金なんですが、そのいただいた税金での、様々なサービスが市民以外にも及ぼすんですけども、これまでは多くは、例えば神戸市だとか、大きな都市でそういうことがあったんですけども、段々最近は、高砂も大都市ではありませんけども、そういう中小都市でもそういうものが見られたと、それはなぜかというと、それぞれの市の個性というも

のが出てたというのと、人々の動きというのが非常に、往来が増えてきて、なおかつ、これまでだと、いわば産業中心のまちづくりだったものが、違ったまちづくりを・・・いうことだと思うんです。そういう意味でいくと、非常に委員の指摘っていうのは非常に、行政にとって難しいご指摘、要するに、高砂市民に限るべきなのかというところの、難しかったとこですけども、先ほどのご説明では、講座のほうは多く、その代わり、ゼミのほうは少し絞るような形で抽選をする、このようなお考えということですけど、よろしいでしょうか。

○委員

私、これ見て、ええなと。今初めて見たんですけど・・・。播磨学・・・・好きなんですけど、参加しようかなと思ったら、もうあかんみたいなね。講座やったら、もう今決めてもうたから、今年のこと言うんじゃないですけどね、講座やったら増えても、むしろゼミやったら、あれで絞って、今の風土記のあれとかわかるんですけども、講座やったら、増えても別にええと思うんですよ。それがまたは、募集を全部切っといてから、募集を切ってから定員を決めても、ある意味でね、増やす意味ではええと思うんで。今年はもう入れてもうとるからしゃあないと思いますけども、残念ですね。今知りたいのもあるんです・・・。

○委員

ちょっとそこで、その８０人のうちですね、高砂市民は、悪いんですが、何人いてたんですか、教えていただけたらうれしいな。

○委員

これ、図書館でやられるんですよね。これ、図書館の、要するに、部屋のキャパの関係で８０名にされたんですよね。

○事務局

そうです。

○委員

もしね、今年はそれでいってしまうんだったら仕方ないんですけど、これ、場所広げたら、先生、駄目なんですか。広い場所で。

○会長

ちょっと、内訳をということなんですが、もしわかればで結構ですし、もしわからなければ。

それから会場変更の可能性はと、この二つがあったんですけど。事務局の方で。

○事務局

市外のニーズについては、ちょっと今、資料がございませんので、申し訳ないんですけど、ほとんど市民だと思われます。

それから、場所につきましては、図書館の多目的スペースの定員が大体そのぐらいなので。一応基本的に入館者にお越しいただいたときに、図書館をＰＲする

形で進めましたので。おっしゃっているように、保健センターとか、２４０、２５０入るスペースでいくことも可能なんです。先生であれば、来ていただけると思うんですが、我々の取り組みとしましては、図書館をＰＲするという大前提の元で、限られたスペースでご無理を言って来ていただいているというところでございます。本当に先生にも非常に申し訳ないと思いながら、たくさん、１回講演してもたくさんのとこも、少ない人数も一緒でございますので、そういった中でちょっと、取り組みとして進んだところなので、今後そういうことも考えて、途中何回か大きいとこでつくるとかですね。高砂学でしたら、最終は大きいところで、まとめみたいなこともされてましたんですけど、そういったことも今後考えていかないといけないのかなというのは、考えております。

○委員

そう申しましたのは、大分前だと思うんですけど、姫路の図書館・・・あそこの講演会が、姫路の市民会館でしたね。私、行って非常によかったなというふうに思うんですけども、多分、図書館ができたので、図書館の施設を使うという趣旨だろうなというのはわかったんですけども、こんなにたくさんの方が来ていただける、高砂のそういうのを、興味を持って来ていただけるということは、すごくすばらしいことだと思いますので、できるだけ、もし可能であるならば、図書館を使うということもよくわかるんですけども、来年度からはできましたら、今検討していただけるんでしたら、広い場所で、できるだけたくさんの方に聞いていただける、勉強していただけるっていう環境をつくっていくのも大事じゃないかなと思いました。

○会長

まず、委員、よろしいですか、ご発言。

○会長

ごめんなさい、関係することで。今の委員へのご回答よろしいですか。

いいですか、ではまず先ほど、委員のご指摘で、図書館以外の開催ということで、これは先生のご都合とか出てきたのに言ってますので、申し訳ないんですけども。

○事務局

しゃべる内容は一緒ですので、どこでも結構です。

○会長

ちょっと、それは授業とはまた別にちょっと検討するということで。

○委員

先生のお話を聞いて、そのときにぱっと思ったのが、人数はちょっと知りませんでしたけど、講座のライブラリ化はできないんでしょうかね。その講演を、ビデオか何かに撮ってですね、図書館にライブラリないんですか、視聴覚室いうん

か、映像を一人で観れるようなシステム。そういうところで、講座に参加できなかった人が観れるとか。また、例えば、第何回講座とかを選んで、特に興味がある講座の内容であれば、この回のを観たいなというので、観られたら良いとおもいますが。ただ、先生が許せばですよ。すごく広まっていくんじゃないかなと思うんですけど。

○会長

そのライブラリのような可能性があるのかどうかということ、要するに、ビデオか何か撮られてと。

○事務局

ＡＶコーナー（オーディオビジュアル）。

○委員

あるかというよりも、そういうことをされれば、人数の制限もクリアーするのではないかと思います。また、ある程度市民の方で、講座を選んで観ることができれば興味のある方は、多分それを観られるということで、雰囲気とか、音声だけなのかはわかりませんけど、出来てたら、それでも良いという人もいるんじゃないかなと思います。そうしたら少しでも広まらないかなというのは、一つの提案です。

○会長

まず、ＡＶのコーナーというのはあるということですが、それは、恐らく市販のものを。

○事務局

ＡＶコーナーはないんです、ＡＶ資料は収集していないので、そういう設備がございません。

○委員

そうしたら、図書館に音声のライブラリとかはないんですか？

○事務局

パソコンコーナーとしてはあるんですけども、いわゆるＤＶＤとかＣＤを聞くような施設が、設備がないということですね。

○委員

いや、コンピュータから入れられるのではないのですか。ＣＤを貸して、そこで見るとか。あるいはＣＤ化して貸し出すとかね。

○事務局

オーディオ機器の貸し出しというのは、収集。

○委員

いやいや、機器じゃなくて、ＣＤ化して、ライブラリというか、ＣＤのライブラリとして残せないかということです。提案なんですが、文化として残すという

発想で、そういうコーナーを作れませんか。できるだけで良いので。つまり、そういうコーナーを、せっかくいい話をなされて、それだけで終わるのはもったいないと思うんです。そういうのも残されたらどうかなということを提案したいです。

○会長

図書館の・・・・条件が決まってると思いますので、新たな事業ができる可能性はわかりませんけども、ご提案として、例えば先生の著作権の問題もある。

○委員

だからそれが許せばという条件付きでの提案です。

○会長

クリアした上で、例えばそういうＤＶＤ資料として、講演内容を残したらどうかと、それが使えるようにしたらどうかというご意見ということで。

○委員

その通りです。せっかくそういう知識や知恵それらを文化として残そうということです。

○委員

図書館のことですけども、先ほど、講演の募集を、往復はがきで一人１枚。１枚に一人というふうに言われました。わし、今それを早よう書かなって思いよるんやけど、図書館、非常に交通の便が悪いとこにあって、北浜とか曽根とか、高砂の南のほうから、言うたら、一人やったら、車に乗れないような人も、割と希望がある人があると思う。だから、せめて１枚に二人書き込めるようにしてもらえたら非常にありがたいな。

○会長

ご夫婦で来られるとか、そういうふうなことができないのかということですね。

○委員

それを、今後そういう形をお願いしたい。

○会長

そういう、いろいろな個人の事情というものも踏まえた対応ができないかということで。ありがとうございます。

○委員

これも提案なんですけど、この回答書とか、多分予算のほうにも関係すると思うんですけど、このサインですね。７番目に書かれてます高砂町のサインとか案内板の標柱ですね。こういうサインに関しては、前から思ってるんですけど、サインに表せるのが限られると思うんで、例えばＱＲコードを付けていただいて、この頃でしたらスマホが多いんで、ＱＲでピッとしたら、ＱＲから飛んでその背景なんかもわかるようにできるのではないでしょうか。予算にも絡んでくるかも

わかりませんけども、そういうのを付けたら、今時でしたら、見たときにパっと撮って、そこからまた高砂のことを知ってもらえるというようなことが広まるんじゃないかと思ういます。もし各部署に、一回提案していただけたらと思います。

○会長

それ、ページは何ページ。

○委員

例えばですよ。この回答１の６番、７番です。また毎年設置されると思うので、いろんな、いろんなところでサインとか、そういうのが出てくると思うんで、それにこれからでしたら、ＱＲコードを必ず付けるみたいな形にされたほうが、すごくいいかなと思います。

○事務局

今は標柱に銘板があって、銘板のところに。

○委員

そうです。銘板のところに付けたら、その銘板だけでしたら、少しのことしかわからなかったことが、それでピッとしたら、それをもう少し深くわかるような内容を、そこから飛んで取れるというようなことが良いかなと思うんですけど。

○会長

いかがですか。ちょっとご提案という形。

○事務局

また必要なときに検討してみます。

○会長

これは、今年度２８年度の予算ではある。

○事務局

２８年度は、標柱付けるもの、該当のものがないので、その次また何かふるさと文化財などで指定されるものあったら、そのときにまた・・・検討していきたいと思います。

○会長

ＱＲコードそのものをつくるのはそんなに難しくはないと思うんですけどその管理とかまたいろいろと・・・しばらく置かれているものですから、いろいろと管理の問題があるかもしれません、その辺りも含めてご検討お願いしたいと思います。

ほか、いかがでしょうか。

○委員

ちょっと音楽のことで発言させていただきたいんですが、公民館のピアノにつきましては、毎年定期的に調律を行っており、最善の状態を保っておりますというふうにありますが、これ、その最善の状態というのは、どなたが判断なさって

おられるのかなと。調律さえすれば最善の状態ではないんですね。それこそ、図書館が新たにできて、本当に近代的な美しいものができて、そこに人々がやってきて、もちろん外から、外の市からも来て、たくさんの方、来ていただきたいと思いますし、そうやって、高砂に人がいっぱい・・・大事なことで、喜ばしいことだと思うんですけれど、実際市民自体が使いにくいと思っている部分に関して、要求をしてもこういうふうに、割と、そう言われても最善を尽くしていますとか、いい状態でありますというふうに回答をいただくという。いい状態であれば、市民からいろいろクレームは出ないと思うんですけれど、ライトが暗いとか、床の問題ですね。以前は高砂学があの場所でも、今はされてるんでしょうか、公民館で。

○事務局

２７年度は、公民館で実施しました。

○委員

音楽につきましては、私などはいろんなところで講義とか、いろんなところで演奏させていただいたり、活動させていただいておりますけれども、音楽とかミュージック、ダンスとかいうと、やっぱりほか、高砂の荒井、あらい浜公園とか、３ページにも出てきますが、一般的な若者を対象としたダンスとか音楽で、音楽のメッカとするみたいな傾向があると思うんですけど、この高砂学、播磨学にしても、結構専門知識でいらっしゃると思うんですね。音楽に関しても、専門分野の方々がある程度引っ張っていくというんですか、非常に音楽の歴史も、技術とかいろんな歴史がございますから、市民が自覚を持って、結構誇りも持って、音楽的なところも推進なさっておられるんですけれども、その辺りは高砂は本当に、非常におくれているなと。

その中で、美術協会の方が市と協力なさいまして、実践なさいまして、他地域から、たくさんの方が、優秀な方がこちらに来られて、出品なさって、すばらしい会を実施されましたけれども、今本当に、教育現場でも、どんどん日本の心を歌った童謡などが、教科書からどんどんなくなっていってるんですね。すばらしい、すてきな童謡などが日本、本当にたくさんあります。一方では佐々木すぐるさんの月の沙漠とは言うんですけれど、それに発しまして、ほかの童謡とかも広めていければと。たつの市は、昔から、赤とんぼであるとか、全国的に有名な、童謡にしても有名なところなんですけれども、そこで育たれた薮田翔一さんという方が、去年日本人で初めて作曲家として優勝なさいまして、報道番組、ＮＨＫや、本当にたくさんの報道番組で取り上げられて、非常に有名になられました。作曲家が世に出るとか、まず難しい、ゴーストライターの件もありました、世に出ることは非常に難しいんですけれども、そうやって、次の世代を担う芸術家たちが実際に育ってるんですけれども、高砂からも育ってないわけではないんです

が、全く取り上げられないんですね。だから、音楽に関して、どうしてこう意識が皆さん持っていただけないのかなと思うんですが、もちろん、音楽をするというのは展示集会室でアップライトピアノですが、そこでやりなはれと。音を出すと、非常に周りに迷惑であるという意識が強くあるみたいですね。私、新しくできまして、すてきな・・・講座ありますから、そこで無料で子どもたちなんかに童謡なんかを聴かせていくようなことができないかとお尋ねしましたら、音が出るので、図書館で静かに本を読んでいる方のご迷惑になると。それもわかります。

今度、文化保健センターのほうですか、あちらのほう、新しくできたということで、見学にまいりました。そしたら、きれいにはなっております、２階のほうがね。ダンスのできるフロアみたいなところありますが、そこで、やっぱり音を出してはいけないのかというと、１階に響くから駄目だと言われました。ほかは机が並べてあって、会議室のようなところばかりです。どういうことを目的として使われているのかなというふうに思いました。一つ防音の部屋がありましたけど、それこそ、トロンボーンやトランペット持って入ったら、二人でいっぱいになってしまうような小さな防音室ですね。そこでは、本当に個人的な練習しかできません。だから、本当にこう、いろんなところで歌が聞こえて、音楽が流れていくような、もちろん講演会もありの、すればいいんですけれど、何かそういう町ができたらいいななんて私は思って、子どもの教育のほうの、支援のほうですかね、そちらのほうにも働きかけていこうとは思います。ですから今度新しくできた文化保健センターのほうに私どものアップライトピアノを入れさせていただいて、なかなかピアノを買っていただけないみたいなので、入れさせていただいて、何とか無料で子どもたちにいい歌を歌い続けてもらえるようにしたいなと思ったんですけども、結局音を出してはいけませんということなんですね。どこでそしたら、音楽を発展させていくのかなって思うんです。ですから、それこそ、相生も今度耐震工事で市民会館が新しくなりました。もちろん、企業が費用を出していると思いますが。もちろん姫路は皆さんご存じのように、姫路市立高校ですね、市立姫路高校のところはパルナソスホールがありまして、パイプオルガン、それからパイプオルガンの市民の講座ですね。それから、チェンバロ講座、実際に市民がそこでレッスンを受けて、プレイヤーになっている方がどんどん出てきてます。それで、市民で、市民の力で音楽家も育って、世界的に活動するような方が輩出されているわけで、その辺りちょっと、高砂市の音楽に関しても、ちょっと気持ちを向けていただけたらありがたいなと思うんですが、いかがでしょうか。

○会長

ありがとうございました。ちょっと幾つか論点があったので、まとめさせていただいて、ピアノの調律については、ちょっとこれ、具体的な例だと、またご説

明いただくとして、ちょっと重要な点として、まず市民とかからの苦情というか、ご意見に対しての対応として、法律に従ってやっておりますと。ある意味、ご回答は得られるんですけども、本質はそこじゃないんじゃないかと。いわゆる、何が課題なのかという、もうちょっと掘り下げるようなところから対応できないかというのが１点です。

それから、２点目なんですけども、美術協会の話も出たんですけども、市民団体との協力というのは、この文化振興基本方針にも書いてあるわけなんですけども、音楽についての団体との市民協力は、市民団体との協力はどうなっているのかというようなこともあったと思います。姫路の例も挙げられましたけども、市民が音楽家を育てたい、あるいは音楽ができるような環境をつくりたいというのがあるわけなんですけど、そういうものはどうなっているのかという・・・市民団体との協力、美術協会と市民とがされてるのと同じようなことでいうならば、音楽のほうはどうかというのが２点目だろうと思います。

３点目が、その場所も含めて、ここは例えば高砂は、スイングジャズの何かしたら、何かいろいろ様々、イベントもあったりとか、いろいろ伝統もあるわけですけど、音楽を活用した文化政策とか、行政というか、そういった部分について、ちょっと手薄なんじゃないかと。こういうご指摘があったと思います。ちょっと、ピアノの調律はちょっと私もわからないんですけども、そこをちょっときっかけにいたしまして、三つぐらい、大きく言われたのかなと思うんですけど、ちょっとお答えいただければ助かります。

○事務局

市民からの苦情で、文化会館、文化保健センター、いろんな苦情、要望、実際あります。それにつきましては、運営を指定管理者でやっていますが、そういうアンケートは取っておりまして、要望や苦情については、まとめております。

特に苦情、要望で一番多かったのが、トイレの苦情で、３割を占めておりましたので、洋式化をこれまでは１個ずつ、小さい金額でできる範囲でやっていってたんですけども、一番多い苦情がまずトイレだったので、そこはどうにかしないといけないということで、来年度、改修の予算化をして対応いたします。一応そうした苦情、要望を受けているものについては、できるところについては対応していっているところでございます。

２点目、市民団体との協力いうことですけれども、当然、市のほうでもいろんな文化活動を行っていくんですけども、それにつきましては、市のほうでは、文化連盟の文化まつり事業において、市のほうは協賛という形で協力して、文化まつり事業というのを行っているところです。今は市のほうでできるところは、基本料金につきましては、文化スポーツ課で予算化して支払等についての支援をすると、そういう形でやっているところです。

あと、先ほどの音楽について、薄いんじゃないかということですけども、文化スポーツ課としましても、文化振興をやっていきたいということで、謡曲「高砂」をシンボルにということで、進めています。当然、音楽のほうについても、もっとどんどん振興していきたいなというふうには考えております。ピアノについては、予算がいることはなかなか難しいところもあって、その点できてないところもありますけども、市のほうとしましても一つに偏ってというふうには、全然考えていませんので、音楽や美術や文芸など、そういったところでも、様々な活動をされてる方がいらっしゃいますので、その辺を取り上げていきたいなというふうには考えています。

○委員

委員の要望は多分、室内で演奏できる場所があったらいいなというのが、それが根本なんですね、多分。ということは、かなりお金のかかる話なんでね。例えばですけども、去年沖縄音楽で、姫路市の文化連盟で表彰されてましたね、高砂在住の人が。私、高砂でこの人が演奏したの、１回も聞いたことないんですけども、多分そういう音が出るんでしょうね。だから、この人は姫路で表彰されてます、高砂在住の人ですが。やっぱり高砂の場合は、今、音を出す場所がないのは確かなんですよね。

○事務局

音の関係ですけども、文化保健センター２階を改修しました。もともと文化会館１階の展示集会室と同じような広いところが欲しいという要望がありましたので、今回の改修につきましては、展示集会室のように様々な用途に利用できる多目的室という形にリニューアルしております。ただ、複合施設で、文化だけの施設ではなくて、文化センターと保健センター、両方の施設になってます。１階部分については、保健センターであり、保健事務をしておりますので、やはりどうしても、１階のほうの保健事務をやってるところについては、音の関係とかについては、実際できないかと思います。展示集会室が予約も一番集中して、利用率も高いので、音の出るもの、出ないものも、展示集会室のほうに集まっていましたが、フラダンスの教室などもやってるんですけど、そういったものであれば、広いスペースが必要ですが、それほど音とかしないので、響いたりとかしない、そういったものが、展示集会室を利用していただいていたところが、２階の多目的室のほうに行っていただければ、その分、今まで重なっていた分が空きますので、ピアノとか音がするところは、展示集会室を以前より利用していただけるんじゃないかなと思っております。小さい防音室のところですけども、これにつきましても、もともと大人数で演奏するものではなくて、ギターなど個人練習したいとかいう場合、なかなか家では騒音のためできないという、そういった、個人

でも練習したいという人が使えるようにリニューアルしてますので、そういうニーズもあれば、どんどん使ってもらいたいというふうには考えています。

○事務局

補足で、市民団体との連携とかそういったところなんですけど、今回、市の美術展、行いましたが、その中でちょっとミニサロンというのか、音楽を取り入れたコーナーをつくりましょうということで、市内の若手の声楽家のコンサートをさせていただきました。市展という大きな行事の中で、美術関係だけじゃなくて、やっぱり音楽も取り入れたとか、高砂らしい特徴のある市展にしたいなということで、そういった取組みもしておりましたし、あと、高砂のジャズバンドなんかも有名ですから、どうですかなんていうお話もありましたが、昨年、平成２６年度のときには、ラトローブのほうから、姉妹都市交流でミュージックバンドが来ました。その折に、高砂高校とセッションという形でさせていただいたりとか、イベントごとに、何か音楽関係も取り入れられないかということは考えさせていただいておりますし、そういったところで、新しいアイディアがまたありましたら、出していただいております。舞踊関係にも音楽がつきものですし、今回取り入れたような美術関係のところにでも音楽を取り入れるというのは十分可能です。

若い人に目を向けるべきだというのは、よく言われておりますので、若い人が活躍できる場、またそういった演奏であるとか、声楽であるとかを披露できる場も必要ですし、また、今回新しい施設もできておりますので、そこをいかにうまく使っていくかっていうのは、今後会館やセンターの取扱いにおいても意見を出していただきたいと考えております。今回から文化会館のほうも、市民の意見を取り入れたということで、協議をする会もつくりました。そういったところで市民からの意見をたくさん出していただいて、どんな活用をしていけるのか、施設面の活用、また市が行う事業での活用、そういったところに目を向けていきたいと思います。

○会長

ありがとうございます。

○委員

確かに、美術展で演奏していただくとか、以前よりかは前進は、本当に少しずつしてると思うんですが、決して世間的に新しいことではないんですね。他の地域では、美術館で演奏したり、それから市役所のロビーで演奏したり、病院で演奏したりと、ずっと前からやってるんです。高砂市がおくれすぎてるんですよ。でも、新しいことを始めようとしてくださっていることは、非常にいいことだと思うんですが、それで納得していただきたくない。結局、文化会館のホワイエでやったとしても、電子ピアノですね、電子楽器、こんな小さなのを持ち運んで、音響の悪いところで、演奏家からすれば、非常に条件の悪いところで演奏しなけ

ればならない。お客様はもちろん、今までなかったことですから、専門的な方の歌を、それこそ美術作品の鑑賞とか、無料で聞けたとか、そういうことはいいですけど、決して音楽家の立場から言うと、ベストな状態ではないんですね。どちらかというとつらい状態ですね、ああいうところで歌わなければならない、反響が非常に悪いといったところで。ですから、やはりもうちょっと感覚を、やっぱり変えていっていただかないといけないということと、それから、文化スポーツ課、いろんな市民の方々、本当に好きでやってるとか、興味があるというレベルから、本当に専門職として追及なさっておられる方々、いろんなレベルの方々がいらっしゃって、それを文化スポーツ課で一同にまとめるというのは、非常に困難なことではないかと。こう申し上げては失礼ですけど、少ないスタッフでスポーツのこともやらなければならないということ、もう少し、市の中に専門職的な、やっぱり、ポジションといいますか、そういうシステム化を考えていっていただけないかなと、音楽・・・もちろん市民の方々、文化ゼミに参加してくださっておられるんですが、こういう一般市民の、ただ、そうなってくると、専門職で非常に長けた方もいらっしゃいますが、ただ単に好きで、指導者に付いていくというふうな方、たくさんいらっしゃると思うんですね。だけども、本当に今の時代も本当に優れた方ってたくさんいらっしゃって、やはりその中で、指導者であっても、その指導者がやっぱり常に勉強して・・・高めていかないといけないというとこらへんで、もうちょっとしていきたいのは、ごめんなさい、失礼な言い方かもわかりませんが、意識を高いところに置いていただきたいと思うわけなんです。だから、このピアノの一つ、公民館のピアノにしても、調律さえしてるからベストな状態だと、そういうレベルではないということを、ちょっと私、失礼ながら申し上げたいと思う。市民はそれもわかってますから、姫路市も、ほかの市で、ここからでしたら、気楽に、もう本当に、すぐに聞きに行けますね。レベルのいいものを聞いておられますし、それから大阪・・・東京のレベルも知っておられます、皆さん知っておられます、市民の方が。その辺りを、いつまででも、何というんですかね、一般、一般という感覚で、一般の方々を大事にしないといけないのもわかります。そこら辺りどうなんでしょう。

○会長

　アンケートの説明をちょっとこの辺りさせていただきたいんですけども、非常にご指摘あったところはすごく大事なところで、主としては・・・最大公約数的なところを狙ってくると。しかしながら、文化というのは結構専門性が高いところがあって、そこら辺が、どうしても、ちょっと表現があれですけど、お金のかかる部分もございますので、そこら辺をどういうふうに配分していくのかというのは、非常に難しいところがあると思うんですけども、今委員がおっしゃったのは、ある意味一つの考え方としてですね、こういう、例えばこの町はこういう芸

術を育てる町なんだというようなことが、それは、それなりの、実は研究機関とか専門的な協議会があるというのは条件ですけど、そういう、いわゆる音楽家とか芸術家といった、何とか育てるような、力を入れられることはできないかっていうのは一つの、これからの町を考える上で、一つの方法ではないかということなんですけども、ちょっとすぐに・・・大きなお話にはなるんですけど、とにかくちょっと、もし、先ほどのご指摘について、お答えがあれば。

○委員

確かにその旨ですけど、文化スポーツ課、また体育もせなあかんしね、全体的に足らんとは思うんですよ。専門職、あるんですけど・・・審議会っていったら、年に何回もないし、偉いさんにも来てもろとるし、大変なので、もっと意見が言えるような、常設的な、何か委員会、各文化団体とか、市民団体、活動が長けてくる、そういう一つの、実行委員会ちゃいますね、何とか委員会をつくって、そこで意見を出して、そこで集約して、支援、要望なり、市民に対しての広報とか、いつも市の方、いつもまとめてもろてますから、これを集約するなりして、市民にこう、年度初めと年度末ぐらいに広報したりとか、そういう、全体をまとめる上やから、結局、ボランティアいうか、そういう組織をあったら、そこととして、入れたらという、そういう組織は無理なんですかね。

市民活動も含めて、もうちょっと広くですね。これが何か、村で配ったけども、みなとまちづくり瓦版なんかも配ったんですよね。あれは都市政策課とかですよね。あれもちょっと、文化ですよね。あれも含めて、そういうのもちょっと、文化連盟をもっと広くした形で、まとめてくれるような偉い市民の方がいらっしゃったらええなと思うですけど。

○会長

先ほど言いましたように、文化施策の方針としてあるのが、市民団体と市の協力というのは、非常に大きな柱の一本にしてますので、そういう意味では、その成果というものが見えてこないので、そういうような、ある意味ラウンドテーブルという形で、ラウンドテーブルというのをつくったらどうかという。その中で、先ほど委員がおっしゃったような、こういう、要するに、芸術家を育てるような町がいいとか、あるいはいい演奏を聞くような、いろんな多分意見が出てくるのをこう、ある程度集約できるような・・・。

○委員

ひと言で文化って言いますけど、ものすごく広いんですよね。だから、本当に、若者の言葉を縮めていくとか、そういうもの、文化も、それも言えば文化。それから、ファッションですね。それも言えば文化ですね。ですから、それこそダンスも文化だと思います。でも、それが市の組織として、文化スポーツ課と、そこしかないっていうのが、苦しいんではないかなと思うんですけどね。

○委員

この間も市展がありました。そのときに、音楽とコラボいたしました。そうするとですね、普段絵を見に来られない方も、加古川市からもたくさん来られてたんです。川西の方も来られた。ですからやはり、いろんな方の、ピアノのないところで歌っていただきました。でもあの場所で、１００人から、ああいうことをすることによって、絵のほうを見ていただき、音楽にも親しんでいただくと。そして、専門家を育てるには、やっぱりその、ずっと寄ってこられた方たちの市民の声が、高砂市にはいるねって、出てくると思います。だから、それを何度も繰り返しながらですね、やっぱり高砂市の市民の意識付けをしていかないといけないと思います。だから、一足飛びにもちろん、専門家の上手な方のピアノのあれも必要ですし、いろんなあれもいりますよね。それもよくわかるんですけど、何せ高砂市は、なかなか予算っていうのがあります。だからその順番っていうのも多分あるから、一足飛びにいけないというもどかしさがあります。でも、あれはよかったねっていうので、なってるので、やっぱりそういう、皆さんの喜びが足りて、意識がちゃんと文化に向かっていく方向性をつくっていけたらいいなって思うんですが、いかがでしょうか。

○委員

そういう、否定してるわけじゃないんですよ、決して。いいことなんです。だから、それで、やったやったで万歳で終わってはいけない。

○委員

もちろん、万歳でおらずに、いろんなところの、その高砂学一つにしましても、今までずっと講座ばっかりしてたんだけれども、それをまんねり化させないで、どんな方向でいこうかとか、外へ出ていこうとか、また今、今回新しく活動編を入れられてますよね。だから多分、少人数ですごい頑張っておられるので、そこの今意見として、いい方向に、少しでも取り入れていっていただけるんじゃないだろうかと。

○委員

頑張っていただいてるんですよ。ですけどね、だから組織として、市の組織としてもうちょっと。

○委員

だから一足飛びにできないので、委員が言われたようなことも、していただけるのかどうかということでですね。

○委員

ぜひともやっていただいて。

○委員

持っていけたらいいと思います。

○事務局

組織の関係なんですけど、指定管理者のほうで、文化会館及び文化保健センター運営委員会を平成２８年度に立ち上げる予定をしてます。そこで、市民に向け、どういったようにしていったらいいのかという、新しい試みをしていく予定になっております。

○会長

ちょっといろんなご意見いただいたので、まだご意見いただいてないので。

○委員

この平成２８年度予定事業、６ページ、１の２の１について。先ほど、皆さん方、いろいろ、高砂市民の歴史、文化に対する認識度が案外低いんじゃないかと。これはね、言葉だけで議論して、はまってるように思うんだけどね。高砂市全体で取り組まなければ、１歩でも２歩でも・・・目指すということは難しいと思うんですけれど、せっかく私は、歴史ガイドクラブ、前もちょっと言わせていただいたと思うんですけれども、今年度予算はもうゼロ。この歴史ガイドクラブに所属される人はね、一生懸命、歴史、文化、非常にこう、意識を高めていこうとされる人に、予算化しませんと、こう言われるとね、非常にその影響が、クラブにだけじゃなしに、市民に影響すると思うんですよ。だから、少しでも市民意識を、文化的な、あるいは歴史、遺跡を観光しようという方向付けをさせるということについては、こういう、せっかくの組織をもっともっと大事にすべきではないかな。それによって、市民意識が全体的にアップされるのではないかなと、こういう気がするんです。

○委員

第１回審議会のときも、委員から、資料づくりにお金がかかるんやと言われたんですね。今回付いてるかなと思ったんですけども、付いてなかったので、私も書いたんですね。バックアップのお金にも予算を付けれたらお願いしたいと思います、同意見ですね。

○委員

私は、せっかくいろいろ言われている中で、いろいろ苦労されてる、そういう団体があるにもかかわらず、少しでも、今委員が言われたように、バックアップしようっていう姿勢が見られると、ああ、市も力入れてもらってるんだと、こういうふうに思えるんですけれども。これでいろいろ、県指定、あるいは国指定になったものの、ガイドしていただく、こういうところがあって、市民意識が高揚されるんじゃないか。冒頭会長が言われた、市民に魅力ある事業をしていくためには、それなりに力を入れておられる団体にもっともっと底入れをする。

○委員

それはこの、１の２の１を見たらわかるように、全く態度がね、案内を依頼するとばかり書いてある。各課が依頼するという言い方ですから。

○委員

依頼するにしても、ゼロだと。これは矛盾してるんじゃないかな。それが全てを表していく、そういうふうに思えてならないんです。できたら、歴史文化、非常に多くある高砂市内ですから、交流人口のアップを図っていく、会長も最初、ご挨拶の中に言われました。そのためにも、やはりせっかくのガイドクラブ、これはやらせてもらってるんだって言ってもらえるような、ここでの発言が今後、代表者から出てくるのが望ましいんではないかなと、そういうふうに思えてならないんです。

以上です。

○委員

実は今日も午前中、神戸のほうから大型バス１台、石の宝殿来てます。それは古代の神様を勉強するグループいうことで、日岡さん行って、石の宝殿行って、今度姫路の総社行って、神崎郡の日吉神社、そこ全部ずっとバスで回りますいうこと。

そういうことで、高砂がちょっと、よそのあれに負けたらいかんなということで、夕べ一生懸命資料をこしらえて、コンビニで朝早ようからコピーして、嫁に持っていかせたんやけど、そんなことで、資料がなくて、石の宝殿の資料はあるんやけど、お客さんの目的に合わせた資料いうのが、その都度その都度つくっていかないかん。そんなことをやりながら、努力をしていうか、自分で努力していうのはおかしいけど、頑張っておりますので、何かそういったことをバックアップしてもらえたら、非常にありがたいなというの、つい先日、奈良から帝産バス、大型観光バスが来て、石の宝殿、それから高砂神社へ行って、十輪寺ということで、大型バスやから、小回りが利かへん、それが石の宝殿行くのに道がわからへん、そやからやっぱり、標識をね、石の宝殿方面へ案内する標識をもっと、広い道からようけ、わかりやすい道を、案内をつけてほしいのと、高砂神社までは私、石の宝殿一緒に乗っていったから、この道行きましょうかって簡単な道を行ったんやけど、今度十輪寺へ行くのにバスが入られへんから、カネカの前で止めたんですよ。ほな、もうすぐ守衛さんが来て、そこは従業員のとこやから、バスどけてくれって。それで、その大きいバスが・・・うろうろされて、そんなことでね、いつもそういうことで気遣うんです。何でこんな、地元の人はもうちょっと合理的に、よそから来た人を受け入れるの、そういうことを前々から言うとるんですけども、なかなかそういうことが浸透しないということで、それに大型バスの置き場所が町中にないと。これが一番大きな問題、そんなことで、ガイドクラブの今の実態というのをちょっと報告します。

○委員

ちょっと、時間の都合もあるからやめとこうかなと思ったんですけど、今のお話で、予算化でこのガイドクラブさんの町歩きに予算を付けるという発想よりも、夢のシロの事業で古文書の会の方、確か予算付いて、プレゼンして予算付いてたと思うんですけど、ああいうふうに、古文書とか、そういう歴史ガイドとか、歴史的な文化遺産とかいうことは、高砂市の文化、遺産なんで、委員の個人で、頭の中だけとか、手元の資料だけに集めとくのは、すごいもったいないことだと思います。そういうのを市のほうが率先して、地道にやってる市民の方が夢のシロに応募するようなことではなくて、市のほうが率先して、逆にそういう方に入っていただいて、まとめたいんやということで、ちょっと予算を渡すんで、何とかしてもらえないかという形の予算化をされたら、良いと思います。やっぱり、言うたら悪いですけど、段々知識持ってる人が段々高齢化していって、それが絶対伝わらんとどこかで断絶してしまうと思うのです。そのためにはデジタル化も必要なんで、やっぱり市の若い人とか、デジタルの専門家を紹介したり、また、そういう委員会というか、それをつくって、そこで知識を、悪いんですけど、吸収させてもらって、また皆さんに広報できるようにする、そういう予算は付けたほうが、ありませんというのは、間違いなく・・・がおっても、そういうふうな、残るものに対しては、予算付けたらどうかな良いと思います。

○委員

これとは全く関係ないんですけど、昨年の１１月に亀岡市から、亀岡市の連合自治会、私のほうに、高砂市の連合自治会、交流を図りたいということで、わざわざ来られたんです。亀岡はなぜ高砂までと思ったら、加入率が、高砂はいいということで、自治会の加入率ね。そこまではよかったんですけれども、３０分から１時間足らずの交流で、あとは姫路に行くっていうんです。姫路城の見学です。これに関連してるんですけれども、せっかく高砂に来られたんですから、高砂の周遊で１日を過ごしていただく。そしたら、姫路も大事だけれども、また次に行こうかってなったら、日本全体のいいことにつながっていく。こういうことで、歴史文化、高砂のせっかくの歴史文化を発展させるためにも、こういう機会も、自治会としても持てるから、そのときに、ほか案内してほしいとかいうようなことを言えるような、この審議会でありたい、このように思うんです。

○会長

ありがとうございました。

いろいろご意見いただきました。先ほど出たのは、文化を担う人材の育成、活用というところの部分についての内容だった。要するに今、この中では専門家についての育成なども入っておりますので、そういった部分が、もうちょっと力を

入れていってはいかがだろう、そういう環境づくりをしてはいかがかというのが１点あると思います。

それから委員のほうからございましたのは、やはり文化交流の促進、それを委員などは、文化資源という形で拡張するような形で予算化できないかというご意見もありましたけど、それによって文化交流の促進が図られるんじゃないかと。方針に基づいた政策というか、施策の部分がつくれるんじゃないかと、こういうご意見であったかというふうに思います。

そして、委員のほうからは、一種の皆さん、もう少し楽に話し合えるといいますか、本当に課題をもうちょっと抽出できるような場がいるんじゃないかと。これは、私も申しましたように、文化を基盤とする市民や、市との連携というところの方針に従うものでございます。

ですから、ちょっともともとこういった基本方針を出しているわけですけども、それに基づいた施策という展開が、これからきちっともうちょっと整備が必要なんではないかと。それに向けて、予算のめりはりをつけていったらどうかという、こういうふうなご意見が出てたんじゃないかというふうに思います。

それは、この審議会でこうしてつくったわけでございますので、当然だと思うんですけども、それがこの審議会の中では、それが高砂の文化基盤をつくる、まちづくりなりに寄与する、いわゆる条例で定めた方向に寄与するというのが方向でございますので、今日のご意見というのは、そういうような形でちょっとご整理いただいて。もう２８年度事業については、ある程度動き始めておりますけども、可能な範囲、先ほどの委員の活動についての支援というのは、論点はあると思いますので、そういうものもちょっとお考えいただいて、コピー代もばかにならないと思いますので、そういうことも含めて、ちょっとお考えいただければなというふうに。

お時間ある程度来ておりますので、大体これでよろしいでしょうか、皆さんのご意見いただいたということでよろしいでしょうか。

○委員

ちょっと一つだけ。３９ページのアートタウンプロジェクトの、空き家を随時活動支援ということで、うちの町の一つ南側・・・今お一人で鉛筆画か何か書いていらっしゃる。やっとこの間、高砂やでお二人ほど展覧会をされてるんですけど、具体的にはこの取り組みはどういうふうに進行しているんですか。

○会長

これは、委員に聞いたほうがいいのかなと思うんですけど、どうでしょうか。

○委員

具体的な数字ですか。

○委員

はい。例えばその、ここをアトリエとして使えますよという、そういう外へのＰＲとかっていうのは、具体的にはどういうふうに進めていらっしゃるのかと。だから、大半の方が知らないんじゃないかな、ずばり言うとね。どういうふうにしてそういう、ここが空いてるからどうですか、確かに若い人、絵を書くのに、僕の紹介の人でもそうなんですけども、大きい作品を書きたいんだけども、場所がなくて、大きい作品掛けないんだと。そういう場所があれば、使いたいような若い子も随分いると思うんですよね。そういう方々に、どういうふうに知らせているのかという、その辺りについて、お尋ねしたいと思います。

○委員

そもそも、このスタート時点においては、商店街とか、そういうところでお店をといっても、なかなか実際問題、開店しましても、成り立たないという状況がある中で、であれば、どう定住していただいて、町を活性化していくのかいう中の、一つの方法として、工房というようなものでお使いいただいて、その作品をその店先で販売してもらうと、例えばですね。そういうようなことができれば、活性化の一助になるんではないかというところから、いわゆる貸したいという方と借りたいという方を結びつけようと、そんなことでスタートしていったんですけども、今、もちろん入られたり、建てられたいうような方もあって、７件、８件ぐらいの実績があると思うんですけれども、１番目の問題は、貸したいという方が少ないんですね。借りたいという方は結構多いんですね。その貸したいというのが少ないものですから、市のほうも空き家バンクとかいうような形の中で、そういうことについても、空き家バンクは基本的にそういう芸術家の方たちだけのものじゃないわけですけども、そういうのを勉強しながらやっとるわけですけれども、やはり、ですから、借りたい人を支援、ＰＲしますと、貸したい人が少ないですから、とは言うても、ちょっとずつ変わっていってる中で、やはり口コミで来られるんですね。それで、どこかありますかと。なら、こんなとこありますというようなことで、合えばまたいろいろ入られると。こんな感じにはなっておりまして、一番のテーマは、貸したいという方をいかに増やしていくかというのが今の、貸す側の問題ですね。

○委員

補足で、ＡＴＰ通信というチラシを出してまして、Ａ４版裏表で高砂町内には各戸配布してました。

○会長

町内だけですか。

○委員

貸したいという人を募集するという意味での。

○会長

やはり、町が賑やかになるという例があるといいと思うんで、一つは集中的に、例えばこの街区です、この街区についても、空き家、空き店舗を発掘して、集中的に・・・そうするとその町がすごく何か賑やかになったなというと、貸し手が増えるという可能性もありますので、実際に、かなり個展ベースでやられていくのが、ひとつ相談に乗られてですね。多分、相談のほうが決まって貸して、ちゃんと管理できるのかどうかですね。いろいろあると思うんで、そういったものを一つ一つ潰していかないと、なかなか難しいと思いますけども、需要はあるということでございますので、うまく貸し手と借り手のマッチングをということでお願いしたいと思います、よろしいでしょうか。

すみません、ちょっと時間が超過しておりまして、申し訳ないんですけども、２点目のほうのアンケートについて、ちょっとお話をさせていただきたいと思いますが、前回の審議会のときに、このアンケートをとりますということで、ご意見いただいております。こういうアンケート票をつくって配りました。このアンケートは、この文化振興条例に基づいての振興施策についてのご意見を賜ったり、高砂市民が文化にどう親しんでるのかということを調べるということが目的でございまして、昨年の１２月から今年の１月にかけて実施させていただきました。手元のほうに、一応今日報告書を渡させていただいております。

ちょっと、概要を見ていただきますと、まず、対象２０歳以上で、１０００戸を抽出いたしました。高砂の場合、大体２００件ぐらいの、大体ほぼ信頼されたアンケート調査ができるんですが、一応目標は５０％の回収率で、５００件を目標にしてたんですが、大体実際は４７７件ということでございます。

それで、しかも市のほうから、なるべく若い方の意見を聞きたいということで、ちょっと２ページ目を見ていただきますと、我々はちょっと細かい、男性をちょっと多めにしてですね、若手の男性を多めにして、そういった方からご意見を賜れるような仕組みで、回答いただきました。

３ページを見ていただきますと、属性がありますが、男女比率でいきますと、男性が４６．２％、女性５３．８％。

次のページ見ていただきまして、年齢階級別比率で、見ていただきますと、やっぱり高齢の方が多いご回答ではあるんですけども、２０代、２９歳の方も１５％いただいているということで、ある程度、また若年者からも一定数の回答を得ることができたんじゃないかというふうに思っております。

以下ちょっと、属性のところを少し、後で見ていただいて、５ページが地区別なんですけれども、地区別の推定人口と合わせますと、ほぼパラレルというか、平行のあれなので、そういう意味ではこのアンケートっていうのは、比較的市民の意見をかなり反映できたアンケートではないかなというふうに思っております。

ちょっとずっと飛ばさせていただいて、すみません、いろいろと、後でまた読んでいただければと思います。９ページをご覧ください。９ページに高砂市への愛着ということで、どの程度好きですかということなんですが、半分近くが、大好き、またはどちらかといえば好きということでございますので、高砂市への愛着というのは多いだろうと思うんです。

１１ページをご覧ください。先ほど少し出てきた、文化芸術団体への加盟状況なんですが、今加盟している方が４％ぐらいということで、この回答者のほとんどの方は加入していないのが、ちょっと実は、委員とのお話でも出てきて、いわゆる、文化にかかわる方、実際に行っている方よりも、それ以外の方が多い回答者だと。ですから、ある意味一般市民の方の回答が多いというふうに考えてください。

その次の１３ページをご覧ください。ここからはまず、鑑賞することについてなんですけども、日常生活の中で、文化や芸術を鑑賞することについてということで、重要、どちらかといえば重要という方が半数をしめている状況だということでございます。

おもしろいのは、１４ページのところを見ていただきますと、男女別で見ると、若干男性のほうが否定的と、女性のほうが文化に親しんでいらっしゃるというのが、これはほかの、ちょっと、この以下の調査でも共通するんですけども、そういうような傾向がございます。

１５ページを見ていただきますと、グラフがあるんですが、これ、ポイント化したものなんですが、比較的若い方、２０代、３０代の方で、鑑賞することについてはいいと、ポイントは高いということで、ですから、２０代、３０代の方で、結構実は、文化や芸術を鑑賞することについては、重要だと考えている方が多いです。

実際にどんな文化活動を鑑賞されたかっていうと、続きのグラフを見ていただきますと、地方はやっぱり映画なんですね。それから音楽、結構実は重要でございまして。それから、いろいろご活躍いただいている文化、歴史的建造物、埋蔵文化、そして美術という、これがほぼ大きな要素を占めていて、以下演劇等になるわけです。ただ、鑑賞したものがないという方が１５０件ございます。これは割合からいうと、大体３０％ぐらい、ですから、市民の大体３割ぐらいの人は、この１年間で文化や芸術に触れていないというのが現状であるということが、ご理解いただけるかと。ただ、この数字が低いかというとそうでもなくて、国のほうの調査を見ると、高砂市のほうがまだましだと。５％ぐらいですけど、高砂市のほうがまだ文化、芸術に触れている方が多いんではないかということになります。

ちょっとまた飛ばさせていただいて、細かい分析をさせていただいておりますので、後で見てください。２０ページを見ていただきますと、鑑賞したものがないというご回答の方に、その理由はと聞いているんですけども、一番多いのはやっぱり時間的余裕がないということなんですが、これで興味深いのは、次のページなんですが、２１ページを見ていただきたいんですが、これ、男女別で聞いてるんですね。そうすると、ちょっと上から５段目、表の３の９の上から５段目で、家族の都合がつかないというのは、やっぱり女性が多いんですね、８．９％。要するに、子どもの預かりです、はっきり言うと。これ、年齢見ても、子育て世代の部分が高いので、恐らく間違いなく子どもの預かりなんですね。ですから、せっかく行きたくても、子どもを預ける場所がないとか、預かってくれる施設がないというために行けないという方が結構いるんじゃないかというのが、ここで表れています。

高砂の場合は、属性を調査しますと、いわゆる、こういう言い方をするんですが、古典的性別役割というんですか、男性が働いて、女性が家を守るという、何となくそういう傾向が強い回答者です。だからかもしれませんけども、女性が本来鑑賞したいと思っても、なかなか環境が許さない状況があるというのが、実際こちらから表れています。

それから２３ページが観賞場所なんですが、これはちょっと、映画館などは、これは場所の問題でございますので、高砂市外で鑑賞された方が半数おられるということでございます。これは、芸術作品と場所の問題ということになります。

ちょっと少し飛ばさせていただきまして、今度は３０ページを見ていただきますと、今度は自分で行う文化活動ということが３０ページにございます。これについて、重要かということなんですが、先ほどの鑑賞するものに比べると、やや重要的考え方が少ないということで、文化や芸術を見ることは大事だけども、自分がやることはちょっとねという方が少し多いんではないかというのが、それの現状でございます。これにつきましても、先ほど申しましたように、やっぱり女性のほうが、実は重要度は高いと考えておりますので、鑑賞と同じように、男女の比率でいきますと、男性のほうが文化芸術に対して、若干関心が薄いのかなというのが、この辺りから見えると思います。

実際どんなことをされたかっていうのは、３３ページを見ていただきますと、実際に自分で行われたことについて、書いております。これを見ていただきますと、特に行ったことがないというのは、３６２件ということで、７６．９％でございます。ですから、４分の３の方は、実際にこの１年間何らかの活動をしたわけではないということです。これが高いか低いかというと、次のページ、３４ページを見ていただきますと、国の調査が出てるんですけども、特に高いわけでは

ない。ですから、全国並みです。だから全国の方も、大体４分の３ぐらいは、この１年間、自ら文化活動をされるということはなかったということになります。

ちょっと飛ばさせていただいて、３７ページはその理由を書いておりますが、やはり時間的な余裕がないというのが比較的多かったということになるんですが、これも、ちょっとよく見ていくとおもしろい結果がございまして、どういうことかというと、例えば十分な情報がないというのも比較的多いですね。それから、一緒に活動する仲間がいないとか、活動したい活動が身近にないというのも結構多いです。つまり何かというと、参加はしたいんだけども、実はその環境が整ってないんじゃないかというご意見が、実は３分の１以上あるんですね。ですから、これはまさに文化の基盤をつくるというのが、方針の一つでございますので、そういう意味でいうと、まだまだこれから課題も多いんではないかというふうに思っております。

また飛ばさせていただきまして、今度は４０ページ、ちょっと、行政にちょっと耳の痛い話になりますが、実際につかわれてみて、今の文化施設、満足度はどうかということなんですが、利用したことないが３０％おられましたので、それも含めてなんですけども、満足、やや満足が１０％、それに対して不満、やや不満が１８％ということですから、不満が多いということになります。これ、いろんな調査がちょっと、これ、こういった類する施設に対する調査というのは、いろいろ行われているんですが、通常、満足、やや満足が不満を上回ることが多いんですけども、高砂のこの文化施設に関しては、むしろ下回っていると、こういう現状があるということはご理解いただければと思います。

性別とか、そんなとこについて見ていただいたらわかるんですけども、特に、どこが不満なのかということなんですけども、４３ページを見ていただきまして、まずやっぱり一番大きいのは、この設備の問題ですね、それから、雰囲気がよくないということで、この雰囲気というのはなかなか難しいんですが、例えば電気が暗いとかですね。恐らく、トイレはちょっと設備に入るのかもしれませんけれども、そのような辺りが恐らく一つあるんではないかと。設備の面が実はかなり不満の要因であるということになります。

逆に、料金が高いとか、対応がよくないというのは低いですので、これは職員の方、あるいは指定管理先の事業者の方が一生懸命頑張っておられるのかなと思うんですけども、やっぱりこの設備の部分っていうのは、市の責任でございますので、その部分に対して、若干不満の要素があるということです。

ちょっと次のページ、４４ページを見ていただきますと、不満と書かれた方が、どこが多い、どこを不満と思うんですかというと、不満と答えた方は、実は音響設備とかの設備なんですね。やや不満、ちょっと不満だよという方は、実はその周辺領域、例えば駐車場がないとかですね。そういったことをおっしゃっている

ので、そういう意味で考えると、やっぱり不満がすごくたまるのは、設備なんですね。要するに、不満が大きいと。ものすごい不満をためてしまうのは、設備の部分が非常に影響するんじゃないかということになります。

４５ページ以降、これは我々も含めて反省しなきゃいけないところなんですが、まずこの条例をよく知ってますかということなんですが、全く知らないが４分の３ということで、これはもう、我々も含めて反省しなきゃいけないところなんですが、ほとんど市民には知られていないということになります。ですから、ちょっとこの辺り、どう・・・していくのかということになります。

４７ページに、じゃあこの条例が制定されたと、文化スポーツ課を中心に、様々な事業を展開されていて、これもいろんな資料が出ているわけですけれども、こういったところで、機会が増えたかっていうと、実はそうは思わないが２９３件ということで、６４％ですから、３分の２の方は、条例制定されたからといって、そんなに文化触れたような記憶がないなというふうに思われています。

ただ、４８ページを見ていただきますと、例えば、文化芸術活動に触れる機会と、それから先ほど皆さんにお示ししました、文化を鑑賞することの重要性とのクロス集計なんですが、見ていただきましてもわかりますように、重要だと思う方は、実はそうは思わない、つまり、増えたと思わないという人が少ない。要は、関心のある方は、それなりに増えたと思っていらっしゃると。だから、文化の芸術活動に触れることを大事だと思っている方は、一応ちゃんと注目はしてくれています。ただ、それ以外の方、あまり重要と思っていない方は、えっ、条例あったの、条例で文化増えた、そんなふうに思わないねというふうに思われているというのが現状でございます。ですから、この辺りをどうやって逆転していくのかというのは、ちょっと考えていかなければならないかなというふうに思っております。

それから、５０ページで、先ほどから私が再度申し上げました文化振興の基本方針でございます。５つ挙げているわけなんですけども、その中で何が重要ですかということなんですが、１番が実は文化による産業振興なんですね。２番目が文化を担う人材の育成、活用です。これが１番、２番を占めています。我々の考え方は、産業振興とはある意味結論部分ですね。まず、担う人材を育てて、そういうものあるいは文化資源を発掘していったり、あるいは連携してみたりというものがあるわけなんですけども、要するに、まずは人材、そして、結論である産業振興が大事だということなんですが、この両者がどう違うかというのは５１ペを見ていただくとわかるんですが、文化を重視する方、文化芸術鑑賞振興を重要と考える方は、人材の育成も大事なんです。だけども、あまりそう思ってない方は、結果が大事だと。これを大事だと思ってる方はやっぱりその基盤である人材や環境がいるよねと。あまり関心がない方は、その結果はどうなんだと。その結

果、産業が活性化されたの、町が活性化されたの、活力を得たの、そっちが関心があるということですから、まさに文化に対する考え方によって、何を重視するかがかなり違ってきているというのが、この結果から言われるんじゃないかというふうに思います。

それでちょっと飛ばして、次のページなんですが、次のページはちょっと厳しいご意見なんですが、５４ページでございますけども、文化振興事業に関する認知度でございます。いろんな事業を挙げたんですが、全て知らないが１９９件で、約４２．２％、４割ぐらいの方が、これだけの事業について知らないということです。一番知られているのは、文化まつり事業、それから、ウオーキングとか、まち歩き事業がかなり人気があるということで、知られているということでございます。

こういう状況なんですが、さらにちょっと厳しいのが５７ページでございまして、参加しましたかっていうことなんですが、参加しましたかに対して、参加してない方が９割です、９１％が参加していないということで、参加された方がもう、３９件です。回答者４７７件中３９件というのが高砂市文化事業の中に参加されてます。これを少ないと見るか多く見るかというのは、例えばこれを人口に割り戻しますと、６０００人ぐらいになりますから、６０００人が文化事業に参加したというと、そんな悪くはないかもしれませんが、割合からいうと、１０％相当ということになります。

内容的には、講座系が中心なんですが、見ていただいたらわかりますように、歴史ガイドによるまち歩きとか、高砂学の講座とかというものが、やはり多い。先ほどの先生の講演には、たくさんの人が集まっているというように、講座系はかなり人気があるのかなというのが、ここで見られるところです。

それから、その理由なんですが、その次の５８ページのところ、その理由です。この理由の中で、先ほどから時間的余裕がないがいつも多いんですけども、その次が、多いのがですね、事業開催の情報が入らないということですね、情報がきちっと出てないと。なかなかその情報の発信がどうかという問題が出てます。それからもちろん、魅力ある事業が少ないという回答も多いので、やっぱり魅力ある事業をつくって、しかも、そういった情報を適切に発信していかないと、事業への参加は難しいんじゃないかということが、ここからわかってまいります。

こういったことを踏まえて６０ページに、どんなことがこれから必要ですかということで表に書かせていただいております。一番多いのが、やはりこの情報発信で、先ほども参加しない理由として、情報がなかったということがありましたけども、やっぱり、情報発信というのが文化活動の活発化においては非常に課題ではないかということが、こちらでも見えております。

それからもちろん、イベントの開催や参加ということで、子どもへの教育ということなんですが、これ見ておわかりいただけるのは、要は市民としては、文化を享受したいという思いが強いです。文化をつくりたいとかではないんですね。そこがもしかしたら、ちょっと市民と、要するに実際にやられている方のギャップが出てくるのかもしれないというのは、ちょっと実はここから読み取れるんではないかなというふうに思います。

ちょっとかいつまんだご説明なんですが、一応こういう形で、先ほど言いました、結構精度の高い調査だと思いますので、今後の政策にも反映いただけるんではないかと思います。

ということなんですが、よろしいでしょうか。ちょっとこういうことで、またちょっと見ていただければ。非常に興味深い結論ではなかったかと思います。

何かご質問があれば、お答えいたしますが、いかがでしょうか。

○委員

私この一番、６０ページで情報発信が課題だと言われてたんですけれども、やはりですね。この高砂市は、情報、広報をうまくつかって、アプローチしていかないといけないんではないだろうか。これ、全体を通してそのように思いました。

○会長

ほか何か、もしお気づきの点がありましたら。

よろしいでしょうか、またちょっと見てください。いろいろ細かく分析はしておりますので、内容を読んでいただければ、大体おわかりいただけるようには書いてます。ちょっと文章が、しつこい文章があるかもしれません、それはおわび申し上げます。

ということですみません、時間が少しオーバーしてたんで、最後ちょっと報告事項だけお願いできますでしょうか。

○事務局

本日配布しました資料で、文化保健センターの２階をリニューアルしまして、２８年４月１日から貸館の受付ができます。ぜひどんどん、多くの方にご利用いただきたいなと思っております。また４月１日から５日までは、内覧会を兼ねた美術協会の理事作品展を開催し、美術作品を見ながら内覧できる形になっておりますので、ぜひまた見学いただいて、ご利用いただきたいなと思っております。

それと、文化保健センターの中ホールですけども、愛称も募集しまして、愛称を募集した結果、ぼっくりんホールに決定いたしました。文化会館の大ホールは、じょうとんばホールという愛称が結構定着してきてますので、ぼっくりんホールについても同じく広めていきたいと考えております。

それと、本日配布しました東はりま文化子午線ですけれども、文化連盟の団体で構成されている東播磨文化団体連合会がこの文芸雑誌を発行されております。

今回は天野さんの表紙絵になっております。また、随筆部門で最優秀賞と優秀賞を、高砂市の方が受賞されております。昨年度に引き続いて受賞されています。ぜひ読んでいただきたいと思いますし、文化スポーツ課としても広く知らせていきたいと考えております。

○委員

この文化保健センターを借りる、じょうとんばホールを借りた人がぱっと全部押さえてしまったんですけど、今まで。それは、今後もそういう方ですか、わからない。

○事務局

内容にもよるとは思います。

○委員

いや、ほとんどがね、じょうとんばホールを借りた人が、もうこれ、全部押さえてます。

○会長

借り方として、ホールと全部。

○委員

そうなんです、向こうが望めば借りられるという。今回広くなったから、半分ですよとかね、２階だけですよとか、３階だけですよってなったんかなと思った。それはわからない。

○会長

要するに、多分ホールを借りることの準備とか、そういう形で、多分押さえられると思うんですけど、そうすると、ホールを使っているときは、ほかの活動ができないということで、もうちょっと機動的なことができないかということですね。

○委員

取り決めがどうなったかなというふうに、知りたいんですけど、わからない。

○事務局

そういうのはしてないとは思うんですが。

○委員

直接聞いてみます。

○会長

指定管理者・・・もあると思いますので。

ほか、何かご質問とかありましたら、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

そうしましたら、ちょっと時間少し、５分程度オーバーしてしましたですけども、以上をもちまして、私のほうの進行をやらさせていただきまして、以下、事務局に一旦返させていただきます。

○事務局

本日、ご出席委員の皆様におかれましては、長時間にわたりご審議いただきまして、誠にありがとうございます。

最後に副会長からご挨拶いただきたいと思います。

よろしくお願いします。

（副会長あいさつ）

○事務局

それではこれにて散会いたします。

本日はありがとうございました、お気を付けてお帰りください。

（午後　０時　６分　閉会）